

秋田県の地域祭りを通じて見た
日本の地域祭りの風景と活性化の要因

—秋田県秋田市の梵天祭りを事例として—

秋田大学教育文化学部
日本語・日本文化研修留学生
e1618102 イムギュウオン

目次

1. 序論.....	1
2. 日本の地域祭りとは.....	2
2-1. 日本の地域祭りの概念.....	2
2-2. 日本の地域祭りの状況.....	4
3. 研究方法.....	5
3-1. インタビュー調査の概要.....	5
3-2. インタビューの結果.....	6
3-2-1. 神職、主に宮司という仕事について.....	6
3-2-2. 梵天祭りの目的及び現在の様子.....	7
3-2-3. 外国人に対する認識.....	12
3-2-4. 祭りが齎す効果.....	13
4. 日本の地域祭りの活性化要因（秋田県の梵天祭りを中心に）	15
4-1. 地域祭りの伝統及び文化の利用.....	15

4-2. 民間主導の利点	16
4-3. 留学生による外国人の参加及び、子供の参加を通して の持続発展を図る	16
4-4. 地域メディア及び神社の祭り広報	18
5. 結論	23
6. 参考文献	25

1. 序論

日本の祭りというと、その地域の住民たちと地域社会がともに交わり、古今の特徴が両方存在する祭りが思い浮かぶ。韓国にも立派な祭りが存在するし、世界各地の観光客が集まる有名な祭りも存在する。でも、韓国の祭りの特徴としてはイベント性が強く、何かを紹介または商品の広報が主な目的である。韓国の祭りとは違って、日本の祭りの特徴としては、宗教的な意味が強く、祭りの圧倒的な回数とそれに伴う参加の自由度及び、色々な年齢層の参加にあると考える。このことからイベントの性格が強い韓国の祭りとは違う魅力を感じられる。

韓国のお祭りの種類は日本に劣らない状況である。韓国の「2019年地域祭り開催計画」を立てた、文化体育観光部（2019）によると、2019年韓国で開かれる予定の地域祭りの数はおよそ884種類だという。韓国の祭りはそのため、参加する機会はかなり多いと考えられる。そして、韓国の祭りはビジネス感覚の祭りが多いため、地域の経済活性化には役立つといわれる。なお、自然環境を利用した地域祭りに関しては、多くの祭りが盛況である。その例として、韓国の「ポリョン」という都市では、干潟が豊かな環境であるため、干潟を利用した「マド祭り」が盛んでおり、外国からの観光客も多く参加する状態である。しかし、それに伴う問題点も多数ある。その中でも、イ（2000）によると、「イベント性、そして商品を売る形になっている地域祭りがほとんどである。参加する人たちは多いが、ほとんどが外部からの人たちなので、こういう地域祭りがその地域の住民たち、そして地域社会の間の協調を上手に発揮することができないのが現実」だという。このような問題で、韓国では地域の住民たちと地域社会の和合がうまく出来上がっていないという事実がいつも取り上げられている状況である。

一方、日本の地域祭りは、韓国とは違って、その伝統を守ることにあると考えられる。在日韓国大使館（2015）によると、日本のお祭りはほとんどがその地域の神社で行われているので日本に根強く広がっている神道の影響が強く、そのためその

地域のストーリーを生かすことができると述べている。その上、住民たちが主導するのも一つの長所だとみられる。そのため、韓国で問題とされた住民と地域社会の和合がうまく出来上がっている。

毎年1月17日に秋田県の秋田大学では留学生の梵天祭りへの参加を勧めている。その主な目的は秋田の独特の祭りである梵天祭りを経験すると同時に、秋田の文化を留学生たちに体験させようとする目的で行われている。梵天祭りの風景は祭りを今まで体験したことのない筆者にとっては非常に不思議なものであった。多くの人々が年齢を問わず、自分の所属している団体や会社の梵天を持ち上げて走り、力を競う。そして酒に酔った人達もいれば、神社で戦う人達もいた。神社の中では秋田で有名な、ナマハゲ達のパフォーマンスがあれば、梵天祭りを取材しに来た記者が祭りに参加した人々にインタビューをし、生放送のため祭りに参加したレポーターも見られた。梵天祭りが終わった後、韓国の祭りでは感じたことのない日本独特の文化を体験することができ、非常に興味がわいた。そして、その祭りの風景は住民たちだけではなく、その地域の団体、そして企業まで参加し、地域祭りとは考えられないほど多くの人々が参加するのであった。このような経験があった後、筆者はなぜ、日本ではこのような地域祭りが活性化されているのかについて明らかにすると同時に、地域祭りのこれからの課題も又考えるようになった。

以上の問題意識から、本研究ではなぜ日本ではこのように地域祭り（主に秋田県の梵天祭り）が昔から現在に至るまで伝統を維持しながら、活性化されているのかを詳しく考察し、その要因を考察する。

2. 日本の地域祭りとは

2-1日本の地域祭りの概念

岡田（2019）によると祭りという概念が存在する前に、人間というのは色々な結果または現象の背後には行為者（Agents）がいると信じたという。そしてその行為

者を人格化したという。その例として、多様な自然環境の背後にはある行為者がいると信じ、その行為者の姿は人間と等しいと考えた。その結果、「神」という概念が生まれ、昔の人々はその「神」を擬人化し、人間同士の関係を適用し始めた。また例を挙げると、貴重なものを「神」に捧げるとその報いとして願いを叶えてあげるといった構造がその一つである。そしてこのような行動が自然に基本的な祭祀の構造へと変わった。

この理論は反対の概念に適用することも可能である。古代の日本から祭祀や祭りの貢物として粗末なものを捧げると神の怒りを被ることになると信じ、それを避けるため、厳重な「祭式」があったといわれる。

また岡田（2019）によると、このような行為はおそらく日本列島の旧石器時代または縄文時代から「アニミズム」の影響を受け、続いている。しかし、日本列島での祭祀や祭りの成立は水田稲作が始まった「弥生時代」の中期（期元前4世紀）の頃だという。

ソク（2018）によると、日本の地域祭りは一般的に公的であり、慶事的であり、何かを祝うという内容の宗教的な儀式、すなわち、日本伝統のフェスティバルである。そして、「祭り」というのは捧げるという意味の「奉る」という単語から派生されたもので、左右の手を上げ、祭物を納めるという姿を象形化したものだといえる。そして神道や仏教の影響が強い日本は主に神社や寺で祭りが行われているケースが多い。その祭りの内容もまた千差万別であり、主な儀式としては豊作や家内安全そして商売繁盛の意味が強く、これ以外にも無病息災や偉人をたたえるために行われている。

また、キム（2018）によると、前に書いたような色々な目的によって祭りの開催時期や内容が異なる形になっている。同じ目的、そして同じ神に対しての祭りだといっても参加する人たちの好みや伝統によって地域別に多くの差が存在する。また、祭りが行われる環境によっても多くの差がある。例えば、秋田のような農業が盛んな地域では春や秋によく豊作を祈願するとともに収穫した作物に対しての感謝の気

持ちを表すために祭りをする傾向がある。反対に都市では主に夏に祭りが多い。その理由は人口が多い都市の場合、疫病を恐れ、それを防ぐとともに夏にある台風や洪水を避けるために行った祭りが多かったのである。

在日韓国大使館（2015）では、このように日本の地域祭りには色んな要因や特色があるが、その本質はあくまでもほかの色んな社会でも見られる「地域祭り」とあまり差がないのである。それは「神話的な場面の再現」または「神聖な歴史の再現」を通じて神と共に生きていくという現実を確認するのであるからだ。すなわち、「地域祭り」とは人が持つ宗教的な信仰に根強くもとづき、神に対しての感謝や祈りがその根源である。

よって、現代においても日本社会を代表する「地域祭り」は宗教的で集団的な性格が強く、「地域祭り」はその地域の住民たちや地域社会の象徴することである。と言える。そこで、地域社会の体表的宗教施設である寺や神社を中心にその地域の住民たちによって昔から行われてきた「神社祭り」が今の日本の代表的な祭りの形となっているのである。

2-2日本の地域祭りの現況

前に書いたように日本の祭り、地域祭りはその地域の神社や寺を主体または舞台とするケースが多く、ほとんどの地域祭りは民間主導で行われており、それに対する確実な現況把握は難しいが、日本のウェブサイトである、「地域伝統芸能活用センター」によると、全国的に観光資源化されている祭りは約、4000個以上である。

今、日本の地域祭りが盛んな理由にはただその地域の住民たちが祭りを主導しているのではなく、日本政府が策定した制度もその要因の一つである。日本政府は地域祭りがその地域の経済発展や、その地域の伝統を守り、及び活性化ができるように平成4年に法律 88号、正式には「地域伝統芸能等を活用した行事の実施による観光及び特定地域商工業の振興に関する法律」（通称、お祭り法）という、地域の伝

統芸能を活用し、観光や商工業の振興をはかる目的で 1992年 12月に運輸省がまとめ法制化し、制度的に日本の地域祭りを支援している。

その後、1992年12月に「地域伝統芸能活用センター」を設立、毎年「伝統芸能大会」を開催し、「地域伝統芸能大賞」を多年にわたり、地域伝統芸能の活用を通じ観光又は商工業の振興に顕著な貢献をしたと認められる個人又は団体に授賞している。なお、在日韓国大使館（2015）によると、日本政府は地域祭りによる観光及び地域経済発展に関する「基本方針」を決め、都道府県は「基本方針」従って「基本計画」樹立するかたちをとっており、国家や自治団体はその「基本計画」に根拠し地域祭りの支援をすることが可能となっている。

最後に、前のような色々な制度や機関のおかげで、地域祭りはもともとその地域の人たちだけのための祭りだったが、メディアの発展に伴って、外部へ地域祭りを広報する事例が多くなった。そのため、JAPANKURU（2018）によると、韓国人だけではなく、他の外国人に対しても祭りとは見慣れたものであり、その例としては日本の敦賀祭り¹では、外部の人々及び、外国人も参加ができると言われる。と述べている。近年ではこのように外部からの人たちも一緒に楽しむようになり、それが地域固有の伝統や文化を体験できる貴重な対象となっている。

3. 研究方法

3-1インタビュー調査の概要

現在、秋田県秋田市所在である太平山三吉神社の祓宜を勤めている佐々木勉さんに2019年6月19日15時30分から16時20分まで、太平山三吉神社でインタビューを行っ

¹ 敦賀まつり（つるがまつり）は、福井県敦賀市にあるまつりで、市内中心部である4つの商店街（駅前商店街・本町商店街・神楽商店街・相生商店街）で行われる敦賀の大型イベントのひとつである。「けいさん祭り」とも呼ばれる。 出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

た。主な仕事としては神社の維持祭、梵天祭りの企画である。インタビュー協力者に許可を得て録音し、その後、文字化した。インタビューは大きいテーマをいくつか設定した上、細かい質問までは設定せず、以下の①～④に従って、半構造形式のインタビューを行った。

①神職、主に宮司という仕事について。

②梵天祭りの目的及び現在の様子。

③外国人に対する認識。

④祭りが齎す効果。

インタビューを実施する前に、協力者にはこの調査は秋田県秋田市の梵天祭りのデータを知るためのものであること、したがって文献では得ることができない佐々木勉さんのライフストーリーの中での梵天祭りについて、話してほしいことを伝えた。

3-2 インタビューの結果

本節では、上記の質問項目を中心に、インタビューの結果を報告する。以下、報告すべき内容をまとめ、次いで、具体的な発言を例示する。

3-2-1 神職、主に宮司という仕事について

祭りを知る前に、神社の宗教法人であり、代表役員である宮司について知るべきだと判断した。祭りの特性上梵天祭りは政府との関わりがない100%神社側の主催で開かれる祭りであるため、宮司という仕事が祭りにどんな影響を与えるのかを知るべきだと判断した。

私：宮司という仕事はどんな仕事ですか。

佐々木さん：はい、えっとですね。宮司はそこの、まあ、一つの神社と人との宗教法人になるんですけどね。

私：はい。

佐々木さん：そこの一番の、まあ、責任者代表役員ということになるんですが、

私：はい。

佐々木さん：まあ、仕事としては神社を維持、管理していくのが一番の仕事ですね。神社を維持管理する。それが一番の大きい仕事ですね。だからそれをしながら地域の人方と神社をあのう、包括して、地域の人方の交流っていうか関わりながらお互い力を合わせて神社を守っていくということもまあ、先立ちっていうかな、そういう感じですね。

考察：神社の特性上、宮司の仕事は様々であるが、太平山三吉神社での宮司の仕事としての特徴は町内の和合を考えることが独特であった。地域の人方と神社を包括して、地域の人方の交流っていうか関わりながらお互い力を合わせて神社を守っていくという発言から分かるように住民との協力が印象的。

3-2-2 梵天祭りの目的及び現在の様子

梵天祭りの目的及び現在の様子としては主に時代の流れに合わせた目的の変化、そして昔から現在に至る眼で変わった点と変わらなく維持されている点について詳しく聞くことができた。最後に梵天祭りに関わる佐々木勉さんのエピソードと梵天祭りが持つ特徴もまた、知ることができた。

佐々木さん：あの、そもそもね、梵天祭りっていうのはずっと昔からね、大体あの、江戸時代って言いますから200年ぐらい前からあるみたいです。

私：はい。

佐々木さん：だけど、記録的に書いたものはないんですけども、ただあのう、そもそもの目的っていうかね、その年のね、稲が。稲作だから。稲が豊作になるようにっていうことを神様にお願いするのがそもそものお祭りの願いっていうか、狙いってね。なんですね。でも、今は時代が変わって、

私：はい。

佐々木さん：例えば会社の交通安全だとか、色々な事故とかがないように、安全を祈願するとか、そういうことに代わってきますとも、

私：はい。

佐々木さん：やっぱり、時代の流れに合わせて、願い事とかは変わってきますからね。だからもう一番の発端って言いますか一番の始まりはやっぱりあくまでも稲作、農業。田圃が豊かになることを神様にお願いするのがそもそもお祭りに参加したきっかけです。

私：じゃあ、さっきおっしゃったようにやっぱり、昔から現在までずっと続いている祭りですので。。

佐々木さん：そうです、うん。それはそうですね。あの、内容的にね。願い事とか、なんかそれはね、その時代に合わせて変わってくると思うんですけども、まあ、いまはどちらかというと安全とかね。商売の繁盛とかそういう感じね。なんて来ていますけどね。

【梵天祭りの風景の変化】

私：じゃ、では、昔の梵天祭りと現在の梵天祭りのなんか違う点とか、そしてずっとなんか昔から今までずっと維持来る点は主に何がありますか。

佐々木さん：え、まずね。あのう、昔はですね、それこそあのう昭和の初め。。。終わりかぐらい。ですから今から今から30年ぐらい前とかは、あのう梵天に参加する人が、要は成人、二十歳になった男の子たち。まあ成人のなんていうかな、スタートって言えばいいか。一人前の男になったっていうような感じでいよいよ参加できるというのがね。あったんですけどね。

私：梵天祭りは成人式と等しいものでしたか？

佐々木さん：うんうん。そういうのもありました。昔は、精神的な面でね。ただ、今ね、だんだん皆、過疎化になってきているからね。若い人がいないからその対象になる人がいないんですよ。皆、あのう、特に田舎っていうか田圃を作っているようなところの人に若い人がいなくなってきたのだから。それがなくなってしまったんですね。

私：はい。

佐々木さん：昔と変わったっていうのは確かにありますね。はい。後、これはあくまでも、男の人方。女性の参加はあまりないんですよ。一般的にね。はい。

私：ああ、そうですね。

佐々木さん：でも、男が参加するものだっていうのは昔からありましたね。ただ今は、あの、Wさん方々が韓国の留学生と一緒にすることになって、その中では女の子もいましたんですけどね。それはいい波だと思いますけどね。まあ、一つの文化を学ぶ上ではダメっていうわけにはね、行かないと思うんですけどね。

私：はい。では、今まで変わってきた点をおっしゃいましたんですけど、今度は、昔から今までずっと維持されてきたものは何がありますか？

佐々木さん：例えばね、あのう、町内とといいますけどね。集落から出ていく場合、やっぱり順番があるんですよ。順番を決める時ですね、そこで、こう、一緒にかち合わって、どっちが先に行こうかみたいな感じで話し合っていますからね。ある時は押し合いをしたりして、ちょっとこうプレスコールみたいな感じで、やるんですけど、まあ、それは今でも変わらないんですね。それで、順番を決めて、じゃ、貴方のほうが先に、では次に私が付いてきますの感じで、それをどんどんこう、重ねて行って数が増えてくるんですね。一本が十本に増えてくるんですよ。それが今まで、梵天祭りの一つの決まりっていうか、町内町内でね、申し合わせ事項みたいな感じで、それがありますね。

私：あああ、そうですか。そして、未来。今後から梵天祭りはどのような方向に

変わっていくと思いますか。または予想しますか。

佐々木さん：えっとね。とにかく今、人がない。少なくなっていますから、例えば、梵天を奉納したんですがついてくる人が少ないということがね、一番多い問題。人が少ない部分をどういうようにカバーしていくかがですね、ちょっと難しい面ですけどね、まあ、それは今私どもも考えているところなんですけどね、例えばあの、梵天じゃなくて、お神輿ね。

私：あ！お神輿ですか。

佐々木さん：お神輿を担いてね、やってるところなどでですね、全国的につながりがあるね、

私：そうですか。

佐々木さん：そこんところのお祭りだとね、もう、九州とかね、北海道とかね、行ったり来たりお神輿を担いてね、そういう人方がいるんですね、もしね、そういう形になるとは考えてないんですけども、まあ、そういうのもありかなってですね。

私：確かに神輿を利用するのもありですね。じゃ、今度は、佐々木さんが祭りに参加し続けながら祭りにかかわる面白いエピソードはありましたか？

佐々木さん：うん（笑み）やはりね、ここの梵天祭りってのは皆さんお酒が入っていますから。

私：そうですね！

佐々木さん：（大笑い）ちょっと想像できないことがね、怒ったりする場合がありますけどね、まあまあやっぱり酔っぱらってからね。あくまでの、こっちとしては梵天を奉納ってか、参加する人と周りにはいる人がね、それを見に来ているっていうか、観客っていうか、そういう人もいっぱいいますからね、その中でなんか事故があつたりして、そこは押さえていきたいなとは思っていますけどね。

私：酒のせいで、大けんかになったこともありそうですね。

佐々木さん： あります、あります。去年の仕返しもよく、話に聞きますけどね。はい。

私：祭りに酒を飲んで参加するってことは僕も初耳ですが、酒を飲むことになった特別なり理由はありますか？

佐々木さん：やっぱり、元気をつけて、みたいなこともあるんですよ。なんか、押し合いに参加するのに、元気をつけて楽しもう！というのがあると思います。

【祭りに参加する立場の違い】

私：このように色々なエピソードがありましたが、僕のような一般人として、祭りに参加することと、宮司の立場として祭りに参加することはどんな違いがありますか？

佐々木さん：やっぱり、こっちはね、あのう、受け入れる側ですから、どうしても、あのう、まず、事故がないように

私：ないように。。。

佐々木さん：それはね、私を含めて、神社の職員とかみんなそれが一番ですよ。そして、それぞれの願いを叶えられるように頑張ること。主にこの二つじゃないですかね。参加する人方はね、一つの冬場のね、ストレス発散の部分もありますし、それぞれの願いをね。よし！今年も頑張ろう！みたいなこともあると思います。

考察：梵天祭りが詳しく記録された文献はないが、およそ200年程度の歴史を持つ祭り。現代化が進み、時代の流れに従って人々の願い事が変化し、大勢の人々が豊作を祈ることから安全や商売繁盛を祈るようになった。

祭りに関わる文化も例外ではなく、現代に至るようになって消えた文化としては男性の成人式として扱われたという。二十歳になってこそ、祭りに参加できる規則

から生じた文化がその原因であったと考えられる。また、男子中心の祭りに女性が参加するようになったという事実もあった。その原因は少し独特で、女性が参加することになった理由は海外の女子留学生の参加が女性の祭り参加に影響を与えたという事実が分かった。

維持されている点としては、町内同士の順番を決める行事であった。町内同士の行事や議論などで町内の共同体意識または和合に影響を与えられられる。そして梵天祭りの現状は参加する若者が少ない。よって、梵天の代替物としてお神輿を用いることもあったが、伝統的な観点から見ると少し難しいと考えられる。

梵天祭りの特徴としては酒を飲んで祭りに参加することが挙げられる主な目的としては元気をつけるためであったが、歴史的にも理由はあると考える。

祭りに参加する立場の違いは、酒を飲んでケンカをする祭りの特性上、神社側は安全を重視した。このようなことから梵天祭りは現在、伝統と新しい文化を共存する祭りであると考察した。

3-2-3外国人に対する認識

現在、梵天祭りでは筆者のような外国人の参加も活発に行われている。外国人が参加するようになったきっかけや外国人の参加に対する周りの認識を主に聞いた。

佐々木さん：いや、別にそれはね、まあ、一つの日本の文化っていうかね？梵天がどうか、精神な部分を含めてね、体験することはいいことじゃないかなと思いますね。ましては人が少ない部分をカバーしてくれるっていうのも、ありますから。こっちとしては歓迎しますよ。

私：でも、こうやって梵天祭りのような地域祭りは、結構その地域の人達だけが参加する祭りだと知っていましたんですが、外国人も参加するようになったのは大体いつ頃ですか？

佐々木さん：そうですね～。正直に言って、Wさんが韓国の人方のお世話をするようになって、そういう人方が来るようになったのもありますし、そうですね、やっぱり、10年ぐらい前からじゃないんですかね。

私：10年ぐらい前ですね～

佐々木さん：あと、国際教養大学の学生さん方もね、もう色んな日本の文化を学びたいっていうか、体験したいっていうことで、参加する人もいますから、大体その頃ぐらいじゃないですかね。

考察：若者の参加が少ない梵天祭りでは外国人の参加は少ない部分をカバーする役割を果たす。留学生が参加し始めたのは10年前、秋田韓国人留学生支援会という団体がその原因である。現在は秋田大学だけではなく秋田県所在の様々な大学からの留学生が参加している状況である。主に日本の文化を学ぶのが目的であって、梵天祭りはその役割を十分に果たしていると考察する。

3-2-4祭りが齎す効果

最後に祭りをを行うことで、地域社会にどのような影響を与えるのかを知り、どんな形として作用するのかについて聞いた。

私：あ、もっと質問したいことがありますけど、梵天祭りっていうのは一見では、さっきおっしゃったように酒を飲んで、ケンカして、激しい祭りだと思っただけで、でも、それと逆に祭りのせいで住民たちや地域社会の和合に対して貢献したこととか、エピソードとかありますか。

佐々木さん：まあ、一般的にね、梵天に奉納するっていうか参加する人方ってのは、その町内って言いますね、集落の代表として来るわけなんですよ。集落の全体の代表として来るって意識を持っていますから、だから、その名誉っていうかね、他のとこと競争して、負けられない！みたいな、皆さんそうおい気持ちで来てますよね、去年は負けたが今年は負けられないってそんな感じで。

私：じゃ、やっぱり、競う中で一つになるという気持ちが生まれることですね。

佐々木さん：その人たちがね、グループグループの中ではそれが重要だと思いますよ。

考察：祭りに参加する過程で、集落の代表である参加者たちの共同体意識を強くする効果がある。

4. 日本の地域祭りの活性化要因（秋田県の梵天祭りを中心に）

4-1 地域祭りの伝統及び文化を利用

田村（2018）によると、梵天祭りの主な目的に大きく三つの目的がある。それは「五穀豊穰」「家内や町内の安全」そして「無事故」などである。その中でも「五穀豊穰」への祈願が強かったという。その理由としては昔の三吉神社のあたりは農家多かったのがその理由である。

また、田村（2018）によると、三吉神社はもともと、その信仰が起こった場所である太平山にあったので、その地域の人たちは太平山からの水を利用し、農業をこなしていた。無論、三吉信仰があるところからの水であったので、人々は五穀豊穰を祈る傾向が強かったという。その中でも、太平山が水源である大平川沿いと旭川沿い町同士で、水をめぐって争ったという伝承があり、それが秋田の梵天祭りの根本となったのである。

そして、秋田県の梵天祭りをみると、その特徴としては、「梵天」というものを持って神社に入ることである。「梵天」というのはもともと、今よりもっと原始的なかたちをしていたといわれる。白い紙がひらひらとした形で飾っている「大麻」²の形であるのもあり（写真1）、稲で作った梵天も存在する（写真2）。代になって梵天の形は昔と比べて増えたがその意味は梵天に神様が降りてもらえるようにしたということには変わりがない。簡単に言うと神様にもっと目立つように梵天を作ったものである。

民俗学者である柳田國男（1910）によると、「梵天」という単語は、「ほで^{ひい}=秀でる」という単語が語源になっているのではないかと考えていられる。普段よりもっと高く、神様に向けて目立たせる。または神さまが降りる祭場を標示するため、

² 資料によって大麻（**おおぬさ**）とは（写真1）のような榊の枝が使われたものを指し、木串のものは小麻（**こぬさ**）である。出典：国学院『神道事典』1999, §大麻 p.198..

高く茂った樹木や竿に御幣をつけて標示したという意味を含めていると言われている。そして今、使われている「梵天」という字は仏教の「梵天様」からの当て字だと言われる。

写真1 ^{おおぬさ}大麻の梵天（写真の左）（2019年1月17日梵天祭り記念館で筆者撮影）



写真2 稲の梵天（写真の真ん中）（2019年1月17日梵天祭り記念館で筆者撮影）



4-2民間主導の利点

在日韓国大使館（2015）によると、今の日本の地域祭りは官の主導ではなく、あくまでの市民たちの自発的な参加及び、地域社会のそして町内の支援で発展してきたといわれる。特に、各地域の祭りを見ると、その地域の人たちの共同体意識と愛郷心が見られる。よって、共同体意識と愛郷心が祭りの持続性を強める要因だと考えられる。

秋田市の梵天祭りがその例として挙げられる。太平山三吉神社総本宮（2019）によると、梵天祭りは祭りが行われる太平山三吉神社の主管で行われていて、祭りに参加するのは秋田市の住民たちだけではなく、秋田県の色々な企業（図2）も参加している状況である。もともとは秋田県の団体や秋田県所在の企業が主に参加をしていたが、最近には秋田県に支店を置いた企業の参加も活発に行われている。企業が参加することで、梵天を持つ若者たちが増えることで祭りの発展に寄与している状況である。

また、民間主導の利点は住民たちで祭り参加に対する規則や方式を決めることで、祭りの持続性を強めることができる。インタビューによると、梵天祭りに参加する前、集落を出る順番を決めるといわれる。その際に集落や町内同士でかち合わせて順番を決めることが昔からの梵天祭りの一つの決まり事だという。順番を決める方法は話し合っで決める場合もあり、またはグループ同士で押し合いをして決める場合もあるといわれる。

最後に、住民たちや団体の和合も例として挙げられる。梵天祭りはある団体を象徴する梵天をもって参加する祭りである。よって、梵天はその団体の特徴をよく表せるように飾り、衣装や小道具なども同じものにする傾向が強い。よって参加する人々の所属感や共同体意識の強化を図ることができる。

4-3留学生による外国人の参加及び、子供の参加を通しての持続発展を図る

今の秋田市の梵天祭りは様々な団体、人々が参加している状況である。その中でも秋田県で留学している学生たちもその一つである。現在、秋田県所在の大学では日本文化の体験を目的として秋田県の祭りや行事に参加することを勧めている。秋田市の梵天祭りもそれに含まれる。

2019年6月19日、15時30分頃行ったインタビューで、太平山三吉神社の祢宜である佐々木は「正直に言って、Wさんが韓国の人方のお世話をするようになって、そういう人方が来るようになったのもありますし、そうですね、やっぱり、10年ぐらい前からじゃないんですかね」と言っている。それ以外にも「あと、国際教養大学の学生さん方もね、もう色んな日本の文化を学びたいっていうか、体験したいっていうことで、参加する人もいますから」とも言っている。

太平山三吉神社の社報によると、2015年までは留学生や外国人の団体が祭りに参加し、梵天を奉納することはなかったが、2014年の三吉梵天祭りに参加した子供や外国人の団体名では、(表1) 秋田韓国留学生支援会という団体が参加し始め、直接梵天を奉納したと記録されている。また、留学生や外国人の団体の数は増えていないが、ほんの最近である2018年の梵天祭りまで参加したという記録が存在する。

表1 祭りに参加した団体数及び、外国人と子供団体の祭り参加 (2013年～2015年の三吉神社の社報より作成)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
年度別三吉梵天祭奉納団体数	67	66	64	64	61	60
年の別祭りに参加した子供や外国人の団体名		秋田韓国留学生支援会	秋田韓国留学生支援会	秋田韓国留学生支援会	秋田韓国留学生支援会 (学) 外旭川幼稚園 外旭川わんわんこども園	秋田韓国留学生支援会 (学) 外旭川幼稚園 外旭川わんわんこども園

そして、筆者が参加した2019年の梵天祭りでは、秋田韓国留学生支援会の所属として参加した事実があることから見ると、留学生の参加はこれから続くと考えられる。

在日韓国大使館（2015）によると、成功的に行われている地域祭りの特徴としては子供や若い世代の参加であるといわれる。また、学校のような教育機関で地域祭りに対する教育を通じて成人になっても祭りに参加し続けるきっかけを用意する。

梵天祭りでは現在、子供の参加も進んでいる状況である。（表1）でも分かるように秋田市の梵天祭りに参加している団体としては（学）外旭川幼稚園外旭川わんわんこども園を挙げられる。外旭川わんわんこども園によると、満3・3・4・5歳児を対象として、梵天祭りに参加することを年間の主な行事としてとらえている。

4-4地域メディア及び神社の祭り広報

在日韓国大使館（2015）によると、地域祭りは主に地方で行われるケースが多く、そのせいで地域祭りを対内外的に知らせるためには広報が一番大事なことである。そのため、地域祭りではその地域のメディアを積極的に移用していると同時に地域の新聞社や放送局もまた、盛んに参加している傾向である。

秋田県の梵天祭りをその例にすると、秋田県の地域新聞社である秋田魁新報では、毎年、秋田県で行われる梵天祭りの記事をウェブサイトに載せている。その記事の主な内容としては、秋田県の梵天祭りの様子や梵天祭りに対する簡単な説明が書かれている。なお、YOUTUBEのチャンネルを作り、動画をアップロードすることで、効率的に梵天祭りを広報している状況である。また、秋田魁新報では、秋田市の梵天祭りだけではなく、横手市や旭川市そして大仙市で行われる梵天祭りに関する記事も載せられている。

また、秋田県のテレビ放送局である秋田テレビによると、今年梵天祭りが開かれた後である2月16日に「ダイドードリンコ日本の祭り地域をつなぐジョヤサの響き～秋田・三吉梵天祭～」(資料2)という番組を通じて秋田の梵天祭りの情報や現場の姿などを詳しく放送した。その主な内容は日本の祭り(2019)によると、「毎年1月17日に行われる太平山三吉神社の例祭「三吉梵天祭(みよしぼんでんさい)」。「梵天」と呼ばれる「依代(よりしろ)」を神社に奉納する祭りで、五穀豊穰や家内安全、商売繁盛などを祈願し、町内会や企業、団体、スポーツ少年団などが参加する。祭りのピークは「町内梵天」。力の神である三吉霊神にあやかろうと、各町内の男衆が威勢よく先陣を競い、境内を激しくもみあいながら梵天を奉納する様子は、その勇壮さや力強さから「けんか梵天」の異名を持つ。番組では、長年祭りに参加している広面(ひろおもて)町内会に密着。先輩から町内の責任者の役割を引き継ぎ後、初めての梵天に臨む男性の「祭りへの思い」に迫る。また、梵天を次の世代に繋ごうと様々な活動をしている関係者を紹介する。」と定義されている。

地域の言論ではなく、祭りを主催する神社側からの広報も行われている。実際、秋田市の梵天祭りを主催する太平山三吉神社では毎年梵天祭りを広報するポスター(資料1)を作り、神社に掲載する。また、太平山三吉神社のウェブサイトに梵天祭りが開かれる期日や時間が載れている状況である。また、三吉神社だけの特徴では、三吉神社自ら神社の社報を発行することである(資料3)。社報では年度別そして、季節別に三吉神社での出来事や行事に対する広報(図1)が載せられ、一般人も閲覧が可能である。



資料1 焚天祭りのポスター (<http://www.miyoshi.or.jp/information/newsletter.html>より引用)

資料2 テレビ番組のサムネイル (<http://www.dydo-matsuri.com/smt/list/miyoshi/>より引用)



(1) 161号 みよし 平成30年12月17日



三吉
みよし

発行所
 太平山頂上願座
 太平山三吉神社総本宮
 宮司 田村 泰教
 秋田市広面字赤沼3の2
 電話 (018) 834-3443
 F A X (018) 834-3444
<http://www.miyoshi.or.jp>



平成30年三吉梵天祭

宮司 田村 泰教

昭和も遠くなりけり。御代替わりを前に、そんな感慨を持つている方も多いに違いない。平成も残り僅かとなった。▽この三十年で最も変貌したもの一つが情報通信分野だろう。一家に一台だった電話は、今や家族一人ひとりが持つのが当たり前となり、インターネット・メール・SNS・、スマホやパソコンからは、いつでも様々な情報を取得・発信できるようになった。情報の地域格差は格段に小さくなり、今さらながら技術革新による恩恵の大きさを感じている。▽と同時に、例えばデジタル化が進んでも、大切なことは時代を越えて共通していることもまた事実。コミュニケーションを円滑にする上で最低限のマナーや気配り、溢れる情報の中から大事なものを取捨選択する力、危険なものを察知し回避する能力・。技術はあくまでも手段であり、根源的に問われるのは、いつの時代もその人の人間性なり経験や知恵といったもの。▽奇しくも今年も明治維新から百五十年に当たる。物は無くとも気骨に溢れ、自立心旺盛な明治時代の人々に現代はどう映るだろうか。便利さに胡坐をかいて、本質的な部分を疎かにすることがないよう十分に気をつけたい。

年始特殊行事日程表

一月 十七日(木) 午前六時 梵天祭
 一月 二十七日(日) 午前十時 どんと祭

5. 結論

日本の地域祭りが現在まで維持され活性化されている理由としては大きく政府と地域社会の努力をその例として挙げられる。

まず、日本政府は平成4年日本の地域祭り文化を守るため「祭り法」という法を策定し、その後、1992年12月に「地域伝統芸能活用センター」を設立することによって毎年優秀な地域祭りに「伝統芸能大会」を開くことで、「地域伝統芸能大賞」を授賞することで、日本の地域祭りの発展に寄与している。

次に地域社会の側面としては大きく四つの方法で地域祭りを活性化していることが分かった。秋田の梵天祭りは神社の近くに梵天祭り記念館を建て梵天祭りの情報や歴史を知らせることによって現在まで祭りを維持することに大きな影響を与えたと考えられる。また、太平山三吉神社側ではもっとアクセスを容易にするため、ウェブサイトを作り梵天祭りの説明や社報をウェブサイトにアップロードし、祭りの情報を一般人にも提供することで、梵天祭りという地域祭りを効率的に発信している状況である。

そして、民間主導であるこそ、地域祭りが活性化されたと筆者は考察する。国の主催ではなく、地域の住民たちが自発的に参加することによって参加の持続性を高めることができるのである。梵天祭りを例として挙げると、その地域の企業も一緒に交わることによって祭りの規模の拡大にも影響を与える。次に町内同士の行事がある。梵天祭りに参加するため、町内同士で集まって順番を決めることによって町の住民たちの和合、ひいては祭りの活性化に寄与すると考えられる。そして梵天というのはその団体の象徴であるため、祭りに参加しながらお互い共同体意識を強くすることも地域祭りの活性化に影響を与えたと考えられる。

筆者のような外国人の参加や、子供の参加も地域祭りの発展を図る重要な要因として見られる。外国人の参加は、地域祭りの特性上、足りない人数をカバーするのに役立つ。もっと大事なことは観光や留学で日本に来た人々に直接地域祭りを知ら

せることができることである。子供の参祭り参加も祭りの活性化一つの大事な要因である。子供の時から祭りに参加することによって大人になっても祭りに参加し続けることができるようにきっかけを用意している。

最後は地域のメディアを活用することである。現在、秋田県の地域新聞社である「秋田魁新報」は梵天祭りの様子を新聞に掲載することによって秋田市の梵天祭りだけではなく秋田県の様々な梵天祭りを人々に知らせている状況である。こういう要因から見ると筆者は日本の地域祭りは現在、十分に活性化されていると言える。

このような要因によって秋田県の梵天祭りは昔から維持され、前に述べたイベント性が強く、主に国家主導である韓国の祭り文化とは違う様子を表している。日本の地域祭りが韓国とは違って持続できる大きな要因では特に民間主導であるため、自発的に祭りに参加するというのが一番大きいことではないかと考察する。

本論文は、秋田市の梵天祭りをインタビューや文献調査、梵天祭りに実際参加したという事実を基に地域祭りが現在までその伝統を維持し、活性化の要因を確かめることに意義を持っている。しかし、こういう要因があるにも関わらず、梵天祭りに参加する団体が減っている点に関してはまだ明らかにすることができなかつた。さらに祭りを活性化する要因は他にもあると思われるので、これからの研究を続ける力になるだろう。

6. 参考文献

岡田荘司 (2019) 『事典古代の祭祀と年中行事』 吉川弘文館

国学院大学日本文化研究所編 (1999) 『神道事典』 (縮刷版) 弘文堂

外旭川わんわんこども園 (2019) 「年間の主な行事」 2019年7月24日取得
<http://www.sotoyo.jp/>

太平山三吉神社総本宮 (2019) 「梵天祭り」 2019年4月13日取得
http://www.miyoshi.or.jp/festival/bondensai_setsume.html

地域伝統芸能活用センター (2019) 「伝統芸能大賞など」 2019年4月13日取得
<http://www.dentogei.or.jp/prize/index.html>

田村泰教 (2018) 「力の神様」 なんも大学 2019年5月25日取得
<https://nanmoda.jp/2018/02/1438/>

JAPANKURU (2019) 「외국인 대환영! “쓰루가 마츠리”에 다녀왔습니다
(JAPANKURU 「外国人大歓迎 “敦賀祭り” に行ってきました!!」 : 筆者訳)
2019年7月3日取得 <https://www.japankuru.com/kr/culture/e1462.html>

김양주 (2000) 『축제의 생산과 소비를 통해본 [마츠리 투어리즘]의 가능성—코
오치 [요사코이]의 전파와 확대재생산을 중심으로』 (김양주 『祭りの生産
と消費を通じて見た[祭りツアーリズム]の可能性—高知[よさこい]の伝播と拡大再生
産を中心に』 : 筆者訳)

문화체육관광부 (2019) 「2019년 지역축제 개최계획」 (文化体育觀光部 「2019年
地域祭り開催計画」 : 筆者訳) 2019年7月3日取得
https://www.mcst.go.kr/kor/s_culture/festival/festivalList.jsp

이동혁 (2019) 「한국의 지역 축제가 안고 있는 문제 해결 방안」 (イドンヒョク 「韓国の地域祭りが抱えている問題解決方策」 : 筆者訳) 2019年7月3日取得
http://www.ohmynews.com/NWS_Web/View/at_pg.aspx?CNTN_CD=A0000001712

재일 한국대사관 (2015) 「일본의 지역축제 활성화요인과 향후과제」 (在日韓国 大使館 「日本の地域祭り活性化要因と今後の課題」 : 筆者訳) 2019年7月3日取得
https://webcache.googleusercontent.com/search?q=cache:IX_KBA1lpMsJ:https://www.gaok.or.kr/gaok/cmm/fms/FileDown.do%3FatchFileId%3DFILE_000000000120341582895%26fileSn%3D1%26bbsId%3D+%&cd=1&hl=ko&ct=clnk&gl=jp